

令和元年9月11日



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 林木育種センター

茨城県ひたちなか市立市毛小学校の 「市毛小のアカマツ」の^{こうけいじゆ}後継樹の里帰り ー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー

ポイント

「市毛小のアカマツ」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センターから茨城県ひたちなか市立市毛小学校に里帰ります。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター（茨城県日立市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、これらを品種開発等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。このサービスを活用して、茨城県ひたちなか市立市毛小学校の校歌にも歌われている「市毛小のアカマツ」の後継樹として接ぎ木により増殖し育てた苗木が、9月17日に市毛小学校に里帰ります。

問い合わせ先など

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター

事業責任者：遺伝資源部 探索収集課 課長 織部雄一郎

担当者：探索収集課 遺伝資源収集係長 山口秀太郎

広報担当者：育種企画課 課長補佐 橋本光司

Tel : 0294-39-7002 Fax : 0294-39-7306

本資料は、茨城県政記者クラブ、日立市役所記者クラブに配付しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多くあります。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けていることから、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れていることが見込まれ、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、森林総合研究所林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により、衰弱しているこれら樹木の後継樹の苗木を増殖し、里帰りを行うサービス「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しており、これまでに、全国から 280 件の要請があり、211 件 307 本の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを行ってきました。後継樹の苗木は、さし木や接ぎ木で増殖したクローンの苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする後継樹は以下の苗木です。

○茨城県ひたちなか市立市毛小学校の校歌にも歌われている「市毛小のアカマツ」

「市毛小のアカマツ」は、茨城県ひたちなか市立市毛小学校の校庭にある樹高 20m 程度、直径 90cm 程度の巨木で、校歌にも歌われるシンボリックな存在となっていました。腐朽により衰弱し枯損する可能性があったため、平成 28 年 11 月に市毛小学校から後継樹の増殖を依頼され、穂木を採取して接ぎ木増殖を行った結果、4 本の苗木を育成することに成功しました。9 月 17 日に実施される創立記念集会の際に 70cm 程度に育った苗木 1 本がこの度、市毛小学校に里帰りすることになりました。残りの 3 本は、林木育種センター内に保存することとしています。

図、表、写真等



市毛小のアカマツ

(平成 28 年 11 月の様子、

現在は枯損)



採取した穂木



里帰りする後継樹